

SEA TRIAL

# ROCKSTAR

*REGAL 33 EXPRESS*

間もなく創業50周年を迎える「REGAL BOATS(リーガル)」。

近年は船外機ラインナップを充実させるなど新機軸への積極的な展開も注目される。

多様性を増した REGAL だが、やはり最も得意とするのは中型エクスプレスクルーザー。その熟成と充実を物語るのが「33 Express」だ。

REGAL ならではの素晴らしいマニューバとポテンシャルは、パワーボートの走りを楽しみたい人にも満足いくはず。

そして今まで通りオリジナリティあふれる意匠も健在。姉妹艇の「35 Sports Coupe」と合わせて神戸でシートライアルを行った。

text: Takayuki Kijima photo: Kai Yukawa, REGAL BOATS  
special thanks: REGAL JAPAN <http://regalboats.jp>





## 熟成された造りと走りが魅力の デイクルーザーに最適のオープンエクスプレス ナイトステイやロングクルーズにも対応する魅惑の一艇

アメリカ・フロリダ州 オーランドを本拠地とするボートビルダー「REGAL BOATS(リーガル, Regal Marine Industries, Inc.)」は、間もなく創業50周年を迎える。一貫してクック(Kuck)ファミリーによる家族経営(現社長は創業者の息子)を続けており、独立資本のビルダーとしてはアメリカ最大規模とされる。オリジナリティあふれる多彩なアイデアを活用し、多様なボートを作り続けてきた。

「REGAL」が主戦場とするのは小～中型クラスのエクスプレスボートだ。今回紹介するのは、まさにREGALが最も得意とするジャンル、中型エクスプレスクルーザーの「33 Express」である。日本に初上陸した「33

Express」は全長10.36m、前傾した大型レーダーアーチ(PowerTower)が特徴的なアメリカンスタイルのエクスプレスクルーザーである。従来あった「32 Express」をベースにした新型だ。ハルカラーはPremier仕様で、Black & Flame Redの組み合わせ。なおカラーオプションは多彩に揃っており、REGALのホームページでパターンをテストできる。

「33 Express」のデッキレイアウトは、リアデッキにパウおよびミッドキャビン、アッパーデッキにミッド&アフトコックピットというオーソドックスな組み合わせ。パウキャビンにはこのクラスのエクスプレス艇にしては広めの

サロンスペースが用意されている。特にヘッドクリアランスがしっかりと確保されているのも特徴だ。

最前部には半分ほどの長さのダブルサイズのベッドを配置。サロン前部のソファの背もたれを変形させるとほぼフルサイズのベッドとなる。サロンはL字型ソファとコンパクトなギャレー&シンクが並び、その後ろに個室ヘッド(シャワー兼トイレーム)が備わる。ミッドキャビンには33フォートクラスとしては随一とされるキングサイズベッドを配置。こちらはアレンジによってはツインベッドルームにも変更可能だ。



外観で特徴的なのが舷側の大型サイドウィンドウ。これはちょうどサロンとギャレー部分とミッドキャビン部分に当たる。そのためキャビン内はエクスプレス艇とは思えないほど自然光で明るい。しかもサイドウィンドウは

ガンネルよりも下に配置されている。大型クルーザーの場合、ガンネルより下のサイドウィンドウは10数年前から一般的になってきたが、エクスプレス艇でもこれが普通に採用されるようになってきた。以前よりも構造的に、素材的に強度が上がってきたディテールと言えるだろう。

広々としたコックピットは中央から最後部までフルフラットで一体感があるため、パーティースペースにびっтарыの空間となっている。最前部の右舷側に広めのドライバースシート、左舷側にL字型ソファが並ぶ。その間にキャビンへのアクセスドアとパウデッキへのアクセスステップが備わる。ダッシュボードの表面には合成皮革を用い、隅をハンドステッチであしらってある。ステアリングと合わせてなかなかの手触り。ステアリングはチルトで角度を変えられるため、シートの高さや位置と合



考え抜かれたレイアウトはリーガルの真骨頂。段差がなく同じレベルのフロアとなっているコックピットは素晴らしいパーティースペースでもある。随所にハンドスッチが施された印象のヘルムステーション。パワデッキにはサンベッド、パワデッキへのアクセスは中央のステップで、これはロアデッキへのコンパニオンウェイでもある。ロアデッキには居心地の良いサロンとパワバー、ミッドキャビンが並ぶ。

わせて最適なポジションで操船できる。

ドライバースートの後部には、BBQグリル、シンク、冷蔵庫、ストレージなどの揃ったリフレッシュメントセンターが設けられている。L字型ソファの後部の背もたれはバックトゥバックで前後に向きを変えられる。最後部にはサンパッド兼の大型ベンチソファ (Slide-Away Cockpit Seat) を配置。これはボタンひとつで前後にスライドする。後ろ (すなわちスミングプラットフォーム上) にスライドさせれば、その分コックピットを広く使える訳だ。最大 11 インチ (約 28cm) 拡大できる。また各シート類の下部には

大型ストレージがあり、オープンアクセスながらコックピットは想像以上に収納性が高い。

前述の通りコックピットには、PowerTower と呼ばれる大型レーダーアーチが設けられており、今回の艇ではここにビミニトップをセットしている。日差しが強い夏場もこれは快適。また PowerTower はボタンひとつで倒せる。ブリッジクリアランスは通常 3m あるが、倒した状態では 2.3m となる。低い橋の下を通る際などとても便利だ。干満の大きな日本でのリパークルーズにはびったりのアイテムだ。また、コックピットのフロアレベルから

アフトコックピットのサンパッドは電動で前後に動き、めいっばい後ろに下げればコックピットを拡げられる。背もたれはバックトゥバックとなっており、前後どちら向きでも利用可能。水面に非常に近いスミングプラットフォームは女性や子供に優しく、広さも十分な。

一段下がったスミングプラットフォームはとても水面に近く、マリンスポーツや海水浴に最適だ。

\*

「33 Express」のバワートレインは豊富なバリエーションが揃う。ガソリンエンジンの場合、MERCURY MerCruiser 250 馬力 × 2 基から、MERCURY MerCruiser または VOLVO PENTA 300 馬力 × 2 基まで揃う。ディーゼルエンジン仕様もあり、VOLVO PENTA D3 (220 馬力) × 2 基が用意されている。今回の艇はガソリンエンジンの VOLVO PENTA V8 300、300 馬力エンジンを 2 基掛けしている。電子式シフト、ジョイスティック採用で非常にスムーズな操作が可能となっている。もちろんデュアルプロップだ。

シートライアルは波穏やかな神戸・須磨沖で行われた。非常に締まった印象のブラックハルが主観である。室内のヘッドクリアランスがあるため、もっと高さ方向のボリューム感があるかと思ったが、実際に走らせてみると非常にロープロファイル。重心が低いため、とても安定した走りを見せる。高速での旋回時も極端に傾くことなくスムーズにステアリングに



反応する。マックス 38kt、このスピードで、このコントロール性であれば、走りそのものも安全に楽しめるだろう。

なお 2017 年モデルから REGAL が投入した OUTBOARD SERIES に「33 XO」というモデルがあるが、こちらは「33 Express」とはバワートレインが異なるタイプ。基本的なデッキレイアウトなどは一緒である。「REGAL 33 Express」は、充実したデッキスペースを用いてデイクルーザー的に楽しむもよし、広々としたキャビンスペースを活用してナイトステイやロングクルーズを楽しむもよし、日本におけるボート遊びの質を大きく向上させてくれる可能性を秘めた一艇である。



トランサム下のサマーベッド下に収まるエンジンルームには、2基の 8気筒 5.3リットルの進歩的ガソリンエンジン、VOLVO PENTA V8 300が搭載する。コンパクトかつ軽量、高い加速力を発揮するハイパフォーマンスエンジン。

#### REGAL 33 Express

全長	10.36 m
全幅	3.2 m
喫水	0.9 m
重量	5.73 ton
エンジン	2 × VOLVO PENTA V8 300
最高出力	2 × 300 HP
燃料タンク	568 L
清水タンク	136 L
問い合わせ先	リーガルジャパン TEL: 079-322-8800
	<a href="http://regalboats.jp">http://regalboats.jp</a>

